

衆議院議員

岡田かつや後援会会報

NEWS LETTER



ニュース・レター | 2011 | Summer



直球、健在。



私の主張

MY OPINION

衆議院議員 岡田かつや

民主党政権ができて2年を迎えます。この間、鳩山政権、菅政権2代の政権に対する国民の皆さんからの評価は、大変厳しいものがありました。そういった批判は、真摯に受け止めなければなりません。私も、菅政権の幹事長として懸命に支えてきましたが、十分な結果を残せませんでした。自らの至らなさにについて、国民の皆さんに大変申し訳なく思っています。

他方で、政権交代によっていままでできなかった多くのことが成し遂げられたことも事実です。例えば、子ども手当や高等学校の無償化、35人学級のスタートといったことについて、バラマキだという批判があります。しかし、私は、子どもや子育て世代重視の政策に転換したことは、方向性としては決して

間違っていない、日本の将来にとって必要なことだと確信しています。

民主党政権は、参議院において過半数がなく、野党の賛成がなければ法律1本成立しないという厳しい状況のもとにあります。政権交代に託された国民の皆さんの期待にしっかり応えるために、困難を乗り越えて、日本の進路を切り開いていかなければいけないと改めて感じています。

2年間、外務大臣、幹事長という激務の中にありました。地元の皆さんとの対話にあまり多くの時間を取れなかったことを大変残念に思うとともに、せっかく始まった新しい政治の歩みを、しっかりとより強いものにしていきたいと、決意を新たにしているところです。

岡田かつや活動報告

ACTIVITY REPORT 2010.9 ▶ 2011.6

国会



2011年3月末

2011年度予算

一般会計総額92兆4116億円の2011年度予算が成立しました。私は、被災地のことを考え、一刻も早い成立を目指して野党とも協議を続けました。予算に続き、関連法案の採決も行われ、子ども手当法のつなぎ法案などが可決しました。

国際

2011年3月3日



要人との会談

外務大臣を経験したこともあり、幹事長就任後も海外の要人と多数会談を行ないました。3月には、電話でミャンマーのアウン・サン・スーチーさんと、ミャンマー情勢に関する日本の対応などについて幅広く意見交換をしました。

2011年5月31日



各国大使との懇談

東日本大震災発生後にアフリカ外交団と懇談をしました。私からは、震災に際してのアフリカ各国からの支援に感謝を表しました。アフリカ開発会議のプロセスのもとの、日本とアフリカの一層の関係強化などについて意見交換をしました。

地方

2011年1月3月5日

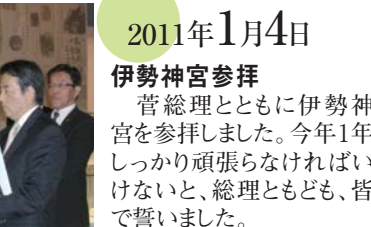


沖縄協議会

「沖縄の声に耳を傾ける」という趣旨のもとに、私が座長となって党本部と沖縄県連合同の「沖縄協議会」を作りました。年明けから計3回沖縄を訪問し、普天間基地の問題や沖縄振興計画など、幅広い問題について意見交換をしました。また、沖縄戦のご遺骨の採掘現場や夜間中学、沖縄本島のみなと離島の宮古島の地場産業なども積極的に視察しました。

地元

2011年1月4日



伊勢神宮参拝

菅総理とともに伊勢神宮を参拝しました。今年1年、しっかりと頑張らなければいけないと、総理ともども、皆で誓いました。

参拝に先立ち、伊勢市内の「尾崎聖堂記念館」を訪問しました。尾崎聖堂（行雄）先生は、三重県選出の議員として第1回帝国議会から63年間、25期議員を勤め、すばらしい実績を残されました。郷土の誇りであり政治家としての大先輩です。

オープンセミナー

東日本大震災から2ヶ月半が経ち、地元でオープンセミナーを再開しました。

5月29日は「東日本大震災と政府・民主党の取り組みについて」をテーマに2会場。

6月18日は「福島第1原発事故と今後のエネルギー政策を考える」をテーマに2会場開催しました。今後も身近なテーマで皆さんとの交流を深めていくつもりです。

統一地方選挙結果について

三重県知事選挙では、民主党推薦候補の松田氏が残念な結果となりました。いろいろな意味で油断があったと思います。いくつかの厳しい状況が重なりましたが、真摯に反省すべきだと思います。

三重県議会選挙では、民主党系の新政みえの候補が24人全員当選を果たすことが出来ました。全国的には、公認・推薦候補の当選が、前回に比べて38名減少しました。その中でそれぞれの候補者の陣営が健闘した結果だと、素直に喜びたいと思います。また、四日市市議会選挙では、12人の民主党公認・推薦候補が出馬し、過去最多の11人が当選を果たしました。今後の皆様のご活躍を期待しております。

ザ・NEWS 総選挙結果報告

知事選挙結果

	三重県	3区 (※)
松田 直久	369,105	78,490
鈴木 英敬	379,472	80,560
岡野 恵美	68,253	16,476

(※) 四日市市を有権者数比率3区45.48%で計算

KATSUYA'S REPORT

被災地視察報告

直接的な被害を受けた被災地をはじめ、被災者の皆さんが暮らす避難所を訪れることで、現場の状況を直接見て、被災地の声に耳を傾けてきました。

3月21日:埼玉県



震災後初の視察として「さいたまスーパーアリーナ」を訪問し、福島第1原発事故の影響で避難された双葉町の皆さんのお話を伺いました。一生懸命働くボランティアの方の姿がとても印象的でした。

3月26日:山形県



救援物資の集積拠点となっている「山形県総合運動公園アリーナ」を視察。ここは、宮城県や福島県に近く、被災地への後方支援の拠点の1つです。

3月27日:青森県



三沢市や八戸市などを中心に、津波によって甚大な被害を受けた漁港などを視察。港は壊滅的な被害を受け、道路上まで巨大なイカ釣り漁船が打ち上げられており、被害の大きさを目の当たりにしました。

4月8日:岩手県

宮古市、山田町、大槌町、釜石市を視察し、行政の関係者の皆さんや漁業関係者の皆さんと意見交換をしました。



気仙沼市、南三陸町、仙台港周辺を視察。港湾は破壊され、大型漁船も打ち上げられていました。世界に冠たるカツオやサンマ、フカヒレの生産地であり、一刻も早く漁業が再開できるよう、復旧作業が必要です。

5月7日:福島県

被災され避難されている町長さんや村長さん、また、受け入れ側の自治体の長の皆さんと意見交換をしました。



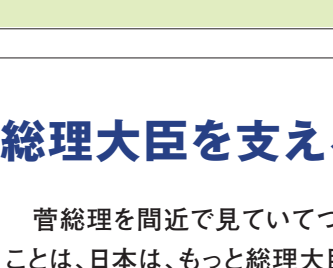
米軍三沢基地を表敬し、マイケル・ラスティーン第35戦闘航空団司令官(大佐)と懇談。東日本大震災後の被災地への米軍の支援に感謝の意を伝えました。

5月15日:青森県

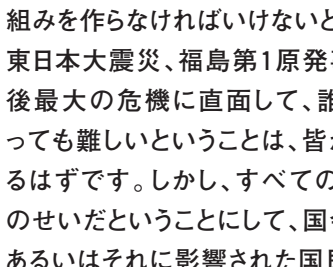
3年後の移転を計画し建設中の大間原子力発電所を視察。地元の皆さんからは、大間原発へ向かう道路の問題が指摘され、避難道の整備に関して要望が出されました。



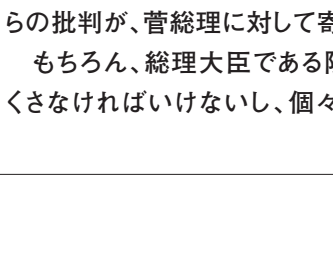
警戒区域内を視察。行方不明者の捜索現場を視察し、捜索に従事する警察、消防、自衛隊の皆さんに感謝の意を伝え、激励させていただきました。



警戒区域境界線のわずかに内側に位置する「前田ボーク」養豚場と「大内新興化学工業」の工場を視察。また、相馬市の遺体安置所を訪問し、地震や津波で亡くなられた方へ献花をし、哀悼の意を捧げました。



老人介護施設と隣接する保育園を視察。元気な子どもたちの姿に、逆に元気をもらいました。



日本三景の1つである松島の離島を訪問。津波の影響は大きく、主要産業の1つである海苔の製造機が破壊されました。訪れた避難所では、互いに励ましあいながら元気に生活されている皆さんに会い、人の温かさや絆の強さを改めて考えさせられました。



KATSUYA'S NOTE



総理大臣を支える仕組み作りを

菅総理を間近で見えてつくづく感じることは、日本は、もっと総理大臣を支える仕組みを作らなければいけないということです。東日本大震災、福島第1原発事故という戦後最大の危機に直面して、誰が総理をやっても難しいということは、皆がわかっているはず。しかし、すべての責任を総理のせいだということにして、国会、メディア、あるいはそれに影響された国民の皆さんからの批判が、菅総理に対して寄せられました。もちろん、総理大臣である限り最善を尽くさなければいけないし、個々の対応につ

いて批判されるべき点はいろいろとあるでしょう。しかし、何でもかんでも批判的に見て、総理にその責任を問うというやり方を続けることが、果たしていいのでしょうか。菅総理を間近に見えて、幹事長として徹底的に支えきろうとしてきました。それが十分できなかったことを本当に申し訳ないと思いつつ、このままでは誰がやっても同じように使い捨てになってしまい、そして、そのことが、日本の国益や国民の利益を大きく損なうということを強く思わずにはいられません。



岡田かつやが語る 東日本大震災から 日本復興への思い

東日本を襲った日本観測史上最大のマグニチュード9.0の地震。過去にない大津波を伴ったことにより想像できないような惨事が各地で発生しています。その被災地を視察した岡田かつやが、自分の目で耳で感じたこと、そして復興という未来への思いを語ります。

3月11日の大地震発生時は、岡田代議士はどうされていましたか？

岡田：地震が起きた時、私は議員会館の自分の部屋で参議院の決算委員会の様子をテレビで見ていました。決算委員会には、菅総理をはじめ各閣僚が出席をしていましたが、突然の大きな揺れで思わず立ち上がりました。事務所のスタッフと「大きな地震だね」と話していて、会話の最中におさまるかと思いましたが、大きいだけではなく非常に長かったので、これは場所によっては大変な事態になりかねないと思いました。

決算委員会は中止になり総理は官邸に戻られました。私も院内に戻って幹事長室で党の幹部の皆さんと協議を始めました。テレビでは、津波が押し寄せ川が逆流し、住宅や車が飲み込まれる姿が映し出されており、現実のものとはとても思えない光景でした。今までにない大きな災害に直面していることを実感しました。

頻繁に被災地を回っていますが、最初に訪問したのは山形と青森でした。真っ先に被災3県（岩手、宮城、福島）に入らなかったのには何か理由があったのでしょうか。

岡田：3月11日の直後は被災地に行く事は控えようかと判断し、各党の党首にも同様のことをお願いしました。それは、我々が入る事で警備の問題などで多くの人手が必要になり、結果として被災された方々への対応が遅れることを恐れたからです。

最初に入ったのは山形、次は青森でした。山形は地震の影響はありましたが、被災3県の後背地として、支援をするための物資や自衛隊が活動していました。そして、被災された皆さんが避難されているということで、まず山形に入りました。青森も八戸や三沢など津波の大きな影響を受けたところもあり、視察をした際に大変驚いた事を思い出しますが、県全体としては地震・津波の影響は比較的小なかつたこともあり、被災3県の周辺から入りました。

その他、茨城や千葉なども早い時期に回りました。そのうえで、岩手、宮城、福島と訪問しました。宮城と福島は二度訪問しました。現地に行きこの目で見ることで、直接関係者の皆さんと会話することで、事態の深刻さや現状の問題点がより明確に伝わってきました。

先日（5月14日）、三沢の空軍基地を訪問され、米軍に対し感謝の意を伝えられましたが、海外からの支援をどう受け止められていますか？

岡田：三沢には米軍の空軍基地があります。震災発生後の早い段階から、家族を含めて米軍のみなさんが完全に破壊された漁港の瓦礫（がれき）の除去にボランティアで参加されたという話を、漁業組合の幹部の方から聞かされたので私はお礼に行きました。今回、米軍をはじめアメリカの支援は本当に大きなものがありました。日米関係をさらに強めたと思いますし日米関係の重要性を改めて認識しました。

中国や韓国をはじめ、アジアの国々や本来われわれが支援しているアフリカの国々も含めた世界中から緊急支援隊が来てくれたり、支援物資や義援金が送られたりしました。私が感じるのは、同じ人間としての共感を持って支援していただいた人々への感謝の気持ちです。同時に、日本という国が世界の中で従来から好感を持って迎えられていることや、日本や日本人に対する好意、それが今回の海外からの幅広い支援に繋がったと思っています。

各地を回られたなかで、特に印象深かったことやエピソード、今後の課題などを教えてください。

岡田：被災地を回るといろいろなことを感じます。悲惨な現実、なかなか進まない復旧・復興の足取り、瓦礫（がれき）もまだまだ残っていますし、仕事がない中で大変不自由な生活を続けておられる皆さんに対し、本当に申し訳ないと思いますし、一刻も早く状況を改善しなければならぬと思います。震災当初は、ガソリンが足りないことが大きな課題で、その次は、仮設住宅の建設がなかなか進まないことでした。そういう問題はかなり前に進むようになりましたが、これからは、やはり被災した地域の再建、そしてそこで働くような町づくり、そ

ういった本格的な復興に向けての努力が必要です。被災された皆さんは、それぞれ厳しい中ではありますが、こちらの励ましや言葉に対して、非常に元気にユーモアで返していただいた方もたくさんいらっしゃいます。先日宮城の離島に行ったときに、90代のとても元気なおばあちゃんに「20代ですか？」と聞いたら「いや、私は10代ですよ」と返していただきました。厳しい状況の中でもユーモアを忘れずに対応していただき、皆さんに逆に元気をもらいました。

そして、厳しい時にこそ、やはりリーダーの力量が試されます。福島第1原発事故の大変な状況の中で、飯館村の村長さんは、計画的避難区域にある特別養護老人ホームを残すという決断をされました。そこにはいろいろな議論がありましたが、「高齢者がバラバラになってしまうよりは、放射線の影響が比較的小さい中で生活していただくこの方が皆さんの幸せにつながる、全て自分が最終的な責任を負う」と決断されました。そういった様々な素晴らしいリーダーに出会うことができるのも、この被災地を訪れた印象深いことです。

震災対応について、菅内閣や民主党に対して厳しい意見も出ていますが、これまでの政府・与党の取り組みをどう見ていますか？

岡田：震災対応について、菅総理はじめ各大臣、政府はこの未曾有の危機の中で非常に頑張っているということは申し上げたいと思います。遅い遅いという声もあります。例えば、第1次補正予算の提出が阪神淡路大震災のときに比べて10日遅いと批判した新聞がありました。しかし、状況は全く違います。当面のお金すらなかった阪神淡路大震災のときは、1兆円の補正予算を組みました。今回は予備費がかなり潤沢に使えるという中で、阪神淡路大震災のときよりは遅かったとはいえ、4兆円の本格的な補正予算を組んだわけです。その2つを比べて10日遅いと批判するのは全くの見当違いです。

私がもう1つ思うのは、全てを菅総理の責任にしているということです。未曾有の事態であるこの地震や津波、原発事故、誰がやっても難しいことは国民の皆さんも良く分かっていると思います。しかし、それを全て総理の責任にして攻撃や批判がされています。健全な批判は必要ですが、批判するだけでは十分ではないと思います。菅内閣が今までやってきたことに対する正当な評価も是非お願いしたいと思っています。

震災復旧、被災者支援のための第1次補正予算が5月2日に成立しましたが、そのポイントを教えてください。

岡田：補正予算は4兆円を超える大きな予算で、瓦礫の撤去や仮設住宅の建設、学校や病院の建設、道路や港湾の復旧などかなりの内容です。漁業予算を取り上げると、年間の日本全体の漁業予算を超える金額がこの補正予算に計上されています。その中には、漁港の瓦礫の除去のために日当約1万2千円を支給して、雇用を創り出しながら漁港の復旧をはかるというような予算も含まれています。これなども被災者の皆さんの意見を取り入れてできたものです。中小企業に対してもかなりきめ細かい対応がなされています。詳しくはぜひホームページでご覧いただきたいと思っています。

(http://www.kantei.go.jp/saigai/handbook/handbook2_1.pdf)

メディアを見ても、予算の規模の話や、遅い早いとかそういう議論が盛んになれますが、大事なことは4兆円の予算を有効に使い、きちんと使い切るということだと思います。

第1次補正予算は与野党全会一致で成立しました。成立への過程で、与幹事長として野党との交渉にあられたと思いますが、与野党間の調整は大変でしたか？

岡田：補正予算を作るにあたって野党との協議が非常に重要でした。実はこれまで野党の幹事長レベルはもちろんです。各党の実務者と政府との協議の場である「各党・政府震災対策実務者会合」を20回開催してきました。各党から非常に良い意見もたくさんいただき、その中にはすぐに実行されたものもありますし、補正の中に反映されたものもあります。野党の皆さんも実務者会議の中では非常に有益かつ具体的な提案をたくさん出されて、それには非常に感謝してい

ます。こういう大きな震災のときで、日本全体が1つになるという時に、永田町だけが、国会だけが別ということはあるはずではないことで、心を1つにして震災対応をしていかなければならないと思います。

これから第2次補正予算の議論が本格化してきます。岡田代議士は党震災復旧・復興検討委員長も務めていますが、基本的な考え方を教えてください。

岡田：第2次補正は第1次補正でやり残したこと、とくに原子力被災者への対策を中心に、迅速に作りたいと思います。そのうえで本格的な復旧のための第3次補正予算が必要となります。これはかなり規模の大きなものになりますので、まず県や市町村の話をきちんと聞いた上で、議論していかなければなりません。国が主導するという名の下で実態とかけ離れたものをつくるということは、結局税金の無駄遣いにつながります。同時に市町村や県が自由度をもって使えるお金や制度なども必要だと思います。被災地にはいろいろな問題があります。多様な問題がある中で、地域的にも広いですし、原発もあれば津波、地震もあり、地域も沿岸部もあれば内陸部もあります。そういう中で従来の細かいルールをあてはめていくと物事が前に進みません。市町村、そして県の責任で進めていただける。そういう地方重視の補正予算にすることが重要だと思っています。

原発事故対応については、被災者や国民から特に厳しい声も聞こえてきます。政府の取り組みをどう見ていますか？

岡田：放射能による被ばくの恐れは、多くの国民にとって大変心配なことです。したがって、しっかりとした情報公開、政府の迅速な対応が必要です。当初は大きな混乱の中でそういったところに問題があったところは事実ですが、それを乗り越えてやっていかなければいけないと思います。同時にいろいろな経験したことのない問題が起きていることも事実で、政府で対応しにくい問題を党として取り上げてきました。

原発事故に関しては、20km圏内の警戒区域、あるいは20～30km圏の計画的避難区域の問題が深刻です。岡田代議士は党震災対策本部長としてこの問題に熱心に取り組み、自ら政府に申し入れをしたと聞いていますが、どういった申し入れをされたのでしょうか？

岡田：私が行ったのは20キロ圏内です。警戒区域に入っているけれども境界線からわずか数十メートルのところで、是非、工場を再開したいという中小企業の経営者や働く人々の要請がありました。線量計で測ると放射能の値は大きくありません。そういうところは弾力的に考えていくべきだと思います。

それから、計画避難区域内の飯館村でも工場や特別養護老人ホームからもそういったことについて例外をぜひ設けてもらいたいという話もありました。こういうものは一定のルールが必要です。例外的な作り方についても、きちんとしたルールに基づいていないと、警戒区域や計画的避難区域の中でも区域を指定した意味がなくなってしまうということにもなりかねません。そういうルールは必要ですが、同時に、原理原則にあまりにとらわれることなく、現実的にしっかり対応していく必要があると思います。

福島第1原発事故の話はまだ安定的に冷却するという状況に至っていません。工程表に従っていろいろな作業をしていますが必ずしも容易なことではないと思います。もちろん現場には死に物狂いでいろいろなリスクをかかえながら進めてもらっていますが、それをしっかり政治が後押しをしなければならぬと思います。

菅総理は浜岡原発の全炉停止を中部電力に要請し、当面の間停止されることになりました。中部電力は岡田代議士の地元三重県にも電力供給していますが、どのようなお考えですか？

岡田：浜岡原発の話は、結論として総理はいい決断をされたと思います。しかしその影響は当然出てきます。どういう場合に原子力発電所を停止しなければならぬのか、あるいは今停止して検査をしているものを再稼働させるためにどういうことが必要なのか、そ



ったことについてしっかりとした議論を早急に行うことが必要です。しかし、このまま定期検査中の原発が再稼働しないままでは次々と定期検査に入っていくことになると、日本の電力供給の約30%を占める原子力全体が止まるということにもなりかねません。そのときには電力の供給が十分ではなくなるので、きちんとした基準をもって、必要なものは再稼働していくということを政府の責任で進めていかなければいけないと思います。そこで重要なことは説明をきちんと行なうということです。

今後のエネルギー政策全体を見直すという菅総理の表明もありましたが、岡田代議士のお考えを教えてください。また、今回の原発事故も含め、エネルギー政策の見直しは、地球温暖化問題にも大きな影響を与えそうです。

岡田：中・長期的に、原子力依存度を5割程度にまで高めるという今のエネルギー計画の見直しは必然だと思います。一方で地球温暖化、つまり温暖化ガスを排出する石炭やLNG火力をやみくもに増やしていくということにもなりません。そこで大事になるのが1つは全体のエネルギー使用を減らすという省エネ、もう1つは自然エネルギー、再生可能エネルギーです。風力や太陽光、地熱などいろいろな自然エネルギーがありますが、いずれもコスト的には今より上がるので、そういったものがしっかりと導入されるような仕組みや、多少高くても電力会社に買い取らせ、その分は電気料金に反映するという固定価格買取制度をしっかりと進めていくことが重要です。エネルギー政策に関しては、当面をいかに乗り切るかということと中長期的展望、そのいずれもしっかりとした議論が必要だと思います。

■地元の皆さんへ

この原発の問題に関連して、今年の夏は、全体的にエネルギー需要を抑えたり、そのためにピーク時対策として土日も工場を動かしたりと、地元の皆さんの生活にもいろいろな影響が出てくると思います。しかし、そういったことをしつつやる中で、この困難を力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。

被災地へのボランティアもかなりの人数が入ってはいるものの、最近では全体として数が減ってきているという話もあります。ぜひ被災地の皆さんに、私の地元三重県の皆さんから大いにエールを送っていただきたいと思っています。できることはたくさんあるはずです。

同時に、今回は東北で地震が起こりましたが、東海地震が起こる可能性はかなり高いので、近い将来、同様の、あるいはそれ以上の規模の地震が起こる可能性も考えておかねばなりません。そういったことに備えた準備、例えば津波への備え、長時間停電した時のための食料や水の確保など、1人ひとりがしっかり考えて、いざという時のために備えていただきたいと思っています。

今回の東日本大震災は、日本人がお互い支えあって生きていることを実感させるきっかけとなりました。日本は大きな試練に直面していますが、皆で力を合わせて乗り越えていきましよう。



暑い夏を迎えつつあります。今年は徹底した節電が求められ、冷房を控えるところも目立ちます。

私はもともとクーラーが好きではありません。従来から、タクシーに乗っても、温度を上げてくださーとお願いすることも多く、新幹線も冷えすぎだと思ってました。そもそも、子どものときはクーラーや大型冷蔵庫、テレビもありませんでした。

今年の節電運動の中で、私も含めて国民の皆さん1人ひとりが、生活スタイルの見直しをするきっかけとなればと思っています。とはいえ、30度を超える中でクーラーなしはつらいというのも事実です。他方で、東京では計画停電実施のときと比べれば、予想を超える節電があったという間に実現しました。

節電は、電気料金が変わらなければ、可処分所得の増加につながります。同時に、地球温暖化ガスの排出量も減るため、次の世代に責任を果たすことにもつながります。

お互いが工夫しながら、楽しく節電・省エネを実現したいものです。皆さんのご提案をお待ちしています。

『岡田語り。』 岡田克也・著

地元での幼少期や学生時代、家族との思い出や恩師との出会いなど、政治家・岡田克也の原点から、政治家として意図して作ってきた政策、責任者として外交の最前線で戦った記録までをまとめた一冊です。「マジメ」「堅物」と言われる岡田克也の真面目な一面が見える、そんな一冊になっていますので、ぜひご一読ください。全国の書店などでご購入いただけます。

●価格：1,500円（税込）
※詳細は、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.katsuya.net/book2.html>



●東日本大震災地震災害募金へのご協力をお願い

民主党は、東日本大震災を受け、党として義援金を受け付けています。是非とも募金活動にご協力いただきますようお願い申し上げます。

お寄せいただいた義援金は、党本部から日本赤十字社へ寄託いたします。6月10日の時点で、合計1億4500万円となりました。皆様の善意に感謝申し上げますとともに、更なるご協力を宜しくお願い致します。

●郵便振替の場合
「民主党募金口座」（記号）00110—6（番号）65328
●銀行振込の場合（りそ銀行衆議院支店・普通預金）
「民主党募金口座」（店番）328（口座番号）7815354

●個人献金のお知らせ

岡田かつやの政治理念に賛同し、個人の立場で財政面からサポートして頂ける方からの献金を随時お受けしています。詳細は、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.katsuya.net/donation/index.html>

岡田かつやブログ 「TALK-ABOUT」 katsuya.weblogs.jp

政治の中心にいて感じることを率直に語るのがこのブログ。政治活動の他、思い出に残った本や映画、休日の過ごし方、車の運転など、岡田かつやのプライベートが満載！コメントも書き込めますので、是非皆さんのご意見を！

メールマガジン「かつやNEWS」 www.katsuya.net/news.html (メールでも無料配信中心の機会にぜひご登録を！)